

下北地区統合校開設準備委員会（第4回）概要

日時:令和7年12月19日(金)

13:30～14:10

場所:プラザホテルむつ

プラザホール

<出席者>

○委員

山本 隆悦 委員長、伊藤 文一 副委員長、野呂 政幸 副委員長、
平内 真一郎 委員、又村 彰 委員、佐々木 一浩 委員、山川 隼 委員、
吉田 成人 委員、阿部 謙一 委員、濱中 亮輔 委員、畑中 祐美子 委員、
成田 真紀 委員

○オブザーバー

県立大湊高等学校

山田 一二美 事務長

県立むつ工業高等学校

坂下 哲也 教頭、麥澤 美穂 事務長、加藤 始 教務主任、坪 大輔 設備・エネルギー科主任

1 開会

2 事務局説明

第3回下北地区統合校開設準備委員会における主な意見

- 事務局が資料1により、第3回下北地区統合校開設準備委員会における主な意見を説明した。

3 意見交換

(1) 統合対象校間の連携の方向性について

- 委員長が各委員に対して、資料2を踏まえ、統合対象校間の連携の方向性について意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 体育祭や文化祭などの学校行事における連携、性教育講座や薬物乱用防止教室などにおけるオンラインも活用した連携が考えられる。また、インターンシップ、学習成果発表会、PTA活動における連携も可能だと思う。学級数は減るが、教育活動は保障しなければならない。
- 進学や資格取得に関する講習についても連携する必要がある。
- 入学したときの条件が卒業まで保障されるようお願いしたい。例えば、入学時に示している教育課程（履修できる科目）や部活動が卒業まで維持されるよ

うにしてほしい。

- 指導方針の方向性の確認など教職員における連携も必要である。
- 連携した取組や連携する際の移動に関する経費等について、県教育委員会から十分に支援してほしい。また、両校における兼務も考えられるが、授業時数が増加しないよう教員への配慮をお願いしたい。
- 委員長が、当委員会における意見を踏まえ、統合に向けた準備が円滑に進むよう、また、統合対象校の生徒が困ることのないよう、両校で連携を深めていくことを確認し、委員から了承された。

（２）記念物品の展示の方向性について

- 委員長が、統合校はむつ工業高校の校舎を利用することから、むつ工業高校の校長である野呂副委員長に対して、展示の方向性について意見を求めた。
- （野呂副委員長）賞状やトロフィー等については、これまでの歩みを伝えることができる常設の展示スペースを確保してほしい。また、多くの記念物品があるため、保管するスペースが必要である。
- 委員長が各委員に対し、記念物品の展示の方向性について意見を求めたところ、次のような意見があった。
- できれば歴代校長の写真も展示してほしい。
- 今後行われる改修や新築の設計において展示スペース等を検討してほしい。
- 委員長が、当委員会における意見を踏まえ、開設準備室において検討を進めていくことを確認し、委員から了承された。

（３）事務の引継ぎの方向性について

- 事務局が資料４により、事務の引継ぎの方向性について説明した。
- 委員長が各委員に対し、留意すべき事項などがあるか意見を求めたところ、次のような意見があった。
- むつ工業高校で行っている資格に関する帳簿管理、免許証の発行等の事務も引き継ぐ必要がある。
- 令和８年度以降の管理職の配置はどのようになるのか。
- （事務局）令和８年度は、大湊高校及びむつ工業高校に校長、教頭が配置されるほか、開設準備室長をむつ工業高校の校長が兼務し、副室長としてさらに教頭が配置される予定である。令和９年度は、統合校の校長がむつ工業高校の校長を兼務することとなる。

- 委員長が統合対象校、統合校、県教育委員会が連携を図りながら、事務手続を進めていくことを確認し、委員から了承された。

(4) 下北地区統合校開設準備委員会報告書（案）について

- 事務局が資料5により、下北地区統合校開設準備委員会報告書（案）を説明した。
- 委員長が各委員に対し、報告書（案）について意見を求めたところ、次のような意見があった。
- 令和8年度に大湊高校に入学する生徒に対して、入学時に示している教育課程（履修できる科目）が維持されるよう、他校の教員が兼務するなどの支援を行うことが望ましいと考えるため、その旨を報告書に記載してほしい。
- 委員長が報告書へ追記することを確認し、委員から了承された。

4 その他

ワーキンググループによる制服及び教育課程の検討について

- 委員長がワーキンググループによる制服及び教育課程の検討状況について説明を求めた。
- （坂下オブザーバー）制服については、これまでに会議を4回開催し、業者を青森菅公学生服に決定した。今後は詳細を詰めていくこととしているが、市民などに広く周知する機会を設けることも考えている。
- （野呂副委員長）教育課程については、総合学科、工業科それぞれの方向性を検討している。開設準備委員会での意見等を踏まえ、系列、学び、連携等の詳細を詰めていく。

5 閉会